

令和6年度県南地域づくりキャンパス事業
大阪樟蔭女子大学
「小農と地域食文化の継承を
目指した地域交流」報告書

大阪樟蔭女子大学学芸学部ライフプランニング学科
フーズスタディコース
准教授 野間万里子

目次

1. 概要（事業内容と目的、日程）
2. 事前準備、那賀町での実施プログラム
3. 事業目的の達成状況
4. 学生や地域住民の意見調査結果
5. 次年度実施に向けて

1. 概要

- 事業内容と目的

那賀町役場、コーディネーター海老名様との連携により、

①中山間地農業と地域社会の現状と課題を学修すること

②那賀町民協力による農業・郷土食体験、交流会、学生による徳島県産食材を用いたカフェ運営を通じて、那賀町内の交流人口を増やし、地域間、世代間交流の促進すること

➡人口減少とそれに伴う農業の担い手不足、地域コミュニティの活力低下という地域課題の解決に資する

- 実施日程

①令和6年10月11日（金）～13日（日）2泊3日（学生12名）

②令和6年11月 8日（金）～10日（日）2泊3日（学生10名）

2. 事前準備①レシピ開発

①『テーマ』について

～テーマ～

『ゆずをメイン食材とした、
旬の徳島県産・四国産の食材を
取り入れたオリジナルメニュー』

☆「ゆず」に関する基本設定

10月：青ゆず & 柚子胡椒

11月：黄ゆず（柚子胡椒）



事前準備②食の流通に関する講義

今日の内容

1. 日本農業の課題
2. 生鮮食品の流通
3. 秋の実習に向けて
4. 課題



私たちが秋に行くのは



徳島県
那賀郡
那賀町

徳島県・一般財団法人 徳島県観光協会「阿波ナビ」より転載
<https://www.nanyang.jp/info/tokushima/tourism/00320>

那賀町木沢地区は

・過疎化に悩む山村

- ・総面積154.9km² (徳島県の3.7%)。森林率97.4%、可住地面積5.11km² (3.3%)。
- ・人口減少
2000年958人→現在約500人 20年でほぼ半減。
500人のうち、60歳以上が6割以上、およそ4人に1人が65歳以上。
- ・特産はゆず

みなさんに期待されるのは

- ・Farm-to-Table
フードスタディコースの集大成となる学び。
- ・那賀町、徳島県の魅力の発見・発信。
- ・ゆずの収穫・加工の労働力。

那賀町での実施プログラム： ゆずの収穫・加工体験、 農業体験

実施前アンケートで最も人気。
実施後アンケート満足度4.2

★★★★★

～収穫がどれだけ大変かを学べた～
～たくさんゆずを収穫したのに、9本
しかできなかったため、ゆうのすには
たくさんゆずが絞られていることを
知りました～

～ゆず1つで様々なものができると知っ
た。果汁でジュースを作り、皮で柚子
胡椒を作るなど～



那賀町での実施プログラム：郷土食体験

実施前アンケートで2番人気

実施後アンケート満足度4.9

★★★★★

～おばあちゃんたちが作ってくれて
ふさとの味だった感じがとっても暖か
かった。買った食材じゃなく栽培し
て作られた食材が使われているので
新鮮で美味しかった～

～ゆずの皮まで利用して料理に使わ
れていてゆずの香りがすごく料理を
引き立たせていた～

～特にそばごめ汁がおいしかった～

～もっと積極的におばあちゃんたち
と話せばよかった～



那賀町での実施プログラム：カフェ運営

～地域の人が美味しいと言って食べてくれて本当に嬉しかったしやりがいがありました～

～多くの料理を作るのは経験がなかったのととても大変だったが効率良くできるように考えながら行動できたのでよかった。また、お客様とのコミュニケーションを取るために行動できた～

※学生と地域住民の交流を増やしてほしいと複数意見。



那賀町での実施プログラム： 移住女性との交流会

～移住したことで良かったことはもちろん、大変だったことなどの本音が聞けたのが良かった。今は、宅配サービスが普及しているため、買い物に特別困ることはないということを知り、印象に残った～

～近所の繋がりは私が思っているよりも近いものであり、とても大切であることが分かりました～

～大阪に住んでいるだけでは見えてこない地域の課題や特徴があることが分かった。実際に現地に行って見て体験することで見えてこなかった課題の深刻さが学べた



3. 事業目的の達成状況

- 人口減少に伴う農業の担い手不足解決に関して
非熟練者による作業ながら、のべ22人日の収穫・仕分け作業を実施。
裏年であったこともあり、予定範囲のゆず収穫完了。

課題：継続的な援農、範囲の拡大。

- 地域コミュニティの活性化に関して
カフェ運営の来客者数、移住者女性との交流実数としては、のべ28名。
交流できた方からは「来年も食べにくるため、長生きせにゃ」と継続的に活動してきたことが認知されていることが伺えた。

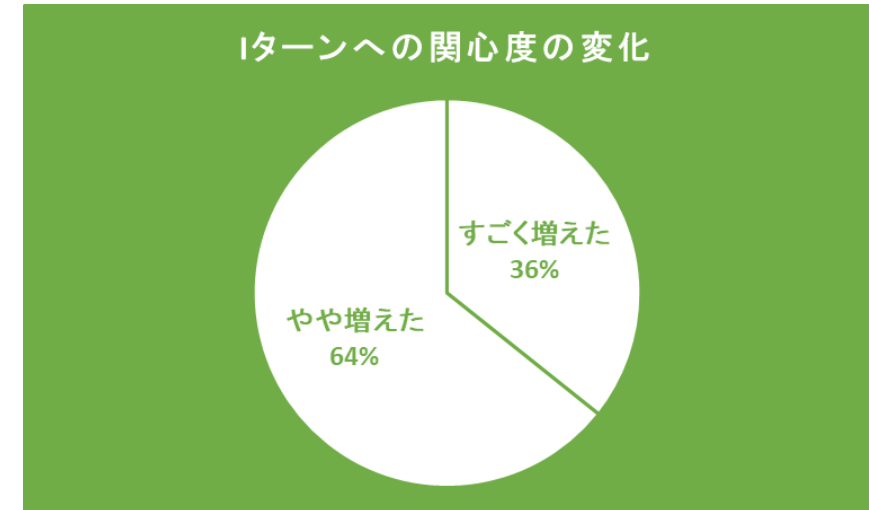
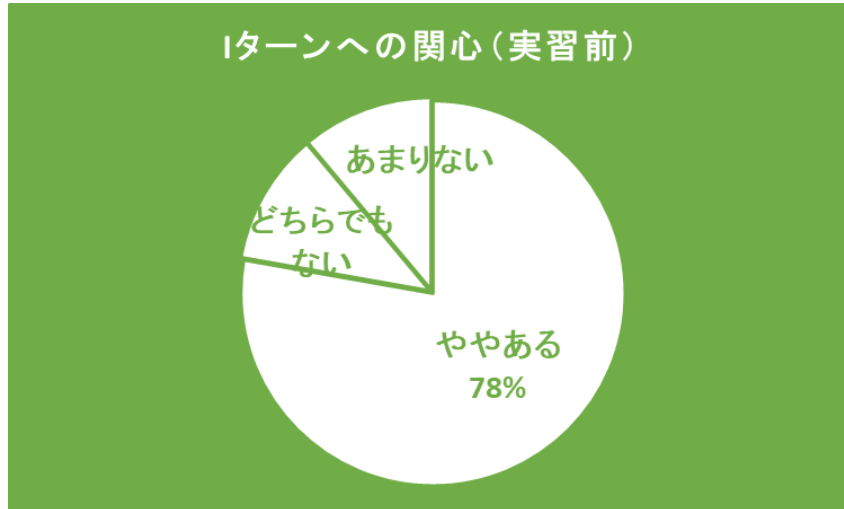
課題：交流実数の拡大、継続。

4. 学生や地域住民の意見調査結果

- (1) フィールドワーク参加学生数 のべ224名（実人数22名）
- (2) フィールドワークがきっかけで県南地域に関わった学生数22
訪れたいと思っていたが、訪れたことはない： 5名
訪れたいと思ったことも、訪れたこともない：17名
- (3) 今後も県南地域でのフィールドワークがあれば参加したい学生数19
参加したい：19名 参加したくない：2名 その他：1名
- (4) 今後、個人でも県南地域に訪れたいもしくは関わりたい学生数18
かなり思う：2名 思う：16名 あまり思わない：4名 全く思わない：0名
- (5) フィールドワークを通して、那賀町に愛着が湧いた学生数19
かなり湧いた：5名 湧いた：14名 あまり湧かなかった：3名 全く湧かなかった0名

学生や地域住民の意見調査結果

- ・Iターン（都市から地方への移住）に対しての関心の変化（有効回答数22）



移住者ワークショップの満足度4.7★★★★★

～お話を聞いて徳島の良さを知ることができたし、就活についても勇気もらえた。自分のやりたい事をやるという言葉が響いた～

➡都市居住学生に新たな選択肢を提示できたのでは

5. 次年度実施に向けて

地域住民の参加、学生との交流を増加させたい。

- カフェ運営場所の確保
- カフェ運営の周知方法の工夫
- ゆず収穫・加工、農業体験場所の確保

事前学修の充実

- 那賀町に関する事前学修に、講義だけでなくアクティブ・ラーニングを取り入れる